イノベーション立国日本プログラム　第四回会議レポート

日本を変えるためのヒントを探る。Phase1 最終章

“限界”の壁を越えたコンセプトとは

2023.9.27(Wed) 15:00-18:00　AKKODiS innovation Lab.

桜谷 慎一
プログラムディレクター

9月27日（水）、AKKODiS innovation Lab.にて「イノベーション立国日本プログラム」のPhase1の最終回となる第4回会議を開催しました。日本の「失われた30年」を取り戻すべく、限界を取り除いたアイデアをもとにコンセプト設定に取り組み、熱く議論を重ねました。果たして日本を変えるためのヒントは見つけられたのでしょうか？

各チームの取り組むテーマ

少子高齢化

**ビジョンをつくる
コミュニケーション**

**首都圏集中と
地方の弱体化**

そのアイデアが新しいビジネスの礎となる

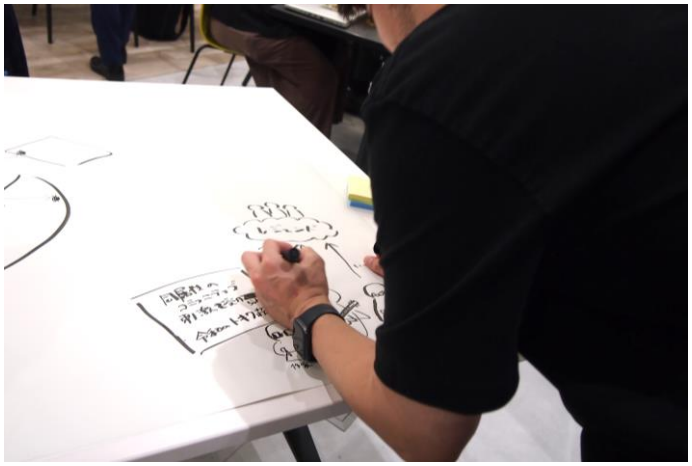
最終回もプログラムディレクターの桜谷慎一が進行を担いました。第1回目の会議に登壇した際から「コンセプトの設定までを終わらせる」ことを参加者の皆さんとの共通認識としていたため、今回はPhase1の集大成として取り組みました。前回、課題解決のポイントとなるWorking Assumptionを見つける作業を行い、そこから出てきた阻害している限界が“長年存在している限界か？”、“覆した時のインパクトが大きい限界か？”などについて、改めて冷静に考えを深めていきました。

コンセプトの策定に関しては、「実行が無理かどうか」を判断はせずに、「抽象度が高くてもよい」としたうえで、アイデアを出し合いました。実行の段階では、実現難易度の高い題目ほど競合の参入障壁が下がり最適解になる可能性もあるためです。

各チームでクリエイティブなフレーズ作りを目指し、いくつもの候補をリストアップし、最もキャッチーなものを選定していきました。

© AKKODiS 2023

アイデアを精査し、コンセプトを考案！
ユニークな発想が新しいビジネスを生む



最終的に、各チームのコンセプトを出し合い、今回のワークが終了しました。「首都圏集中と地方の弱体化」をテーマに取り組んできたチームでは、「時間と場所に捉われない職業の人を誘致する滞在ネットワークをつくる 」をコンセプトとし、ミュージシャンやノマドワーカーなど限られた属性の人たちが情報交換する場所をつくるサービスを提供するという新しいアイデアを紹介しました。桜谷は「Phase 1 の最終回である今回は、コンセプト出しまでを目標としていたので、その目標を達成することができた。一部、粗削りなものもあったが、次の実行フェーズでの検討が楽しみなコンセプト設計ができた」と話していました。

「有意義な時間」「業務で使える」
Phase2への期待感が高まる

計4回のグループワークを終え、参加された皆さんからは「満足感が感じられた」、「新しい交流や事業のアイデアが生まれた」などといった声が寄せられ、Phase1からさらに上積みするPhase2への期待感が高まりました。
Phase2は11月下旬から始まる予定です。桜谷は新たな企業の参加も予定しているとしたうえで、「これまでワークを行ってきたチームもシャッフルし、より多様性を深めた形で事業化まで進められることを期待しています」と話し、日本をイノベーションするビジネスの創出に胸を膨らませました。

参加者からの主な感想

「業界や担当業務が異なる方とワークすること自体がはじめての体験だったが、煮詰まったときに、他のメンバーの助言で切り替えることができました。とても有意義な時間になりました」
「大きな題目への取り組みで、はじめは戸惑いましたが、回を重ねるごとにメンバーの一体感が高まっていくことを感じました」
「課題分析の手法、フレームワークは、大変参考になりました」
「ビジネス思考プロセスについて、身を持って体感でき、参考になりました」

© AKKODiS 2023

この国の「失われた30年」を取り戻す。

イノベーション立国日本プログラム